

# いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)

5月号 発行 平成24年6月1日



## 東日本大震災関連



### いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果

福島県が行ったいわき地方の4月の農林畜産物の放射性物質モニタリング調査結果をお知らせします。

調査した17品目119検体のうち8品目は、全ての検体で検査機器の検出限界値以下でした。しかし、たけのこ、たらの芽(野生のものに限る。)、ぜんまいの3品目は、調査10検体のうち6検体で基準値を超え、ほうれんそうなど8品目は、17検体で基準値内で検出がありました。畜産物、原乳は、調査した検体全てにおいて基準値以下でしたが、農産物に関しては、山菜類とほうれんそうで放射性物質が検出されました。(表1、2)5月に入り、わらびとこしあぶらから基準値を超える放射性物質が確認され出荷制限がかかりました。5月20日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が規制されているのは、ユズ、たけのこ、ぜんまい、たらの芽(野生のものに限る。)、わらび、こしあぶら、野生きのこ、栽培きのこの原木なめこ(露地栽培)、加工品では乾シイタケとなっています。

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま 新発売。」の農林水産物モニタリング情報で簡単に検索できますので、ご確認ください。

(表1) 農林畜産物の調査結果(4月)

放射性物質が検出されなかった品目と検体数	放射性物質が検出された品目と検体数		計
	基準値内で検出された品目と検体数	基準値を超えた品目と検体数	
11品目 96検体	8品目 17検体	3品目 6検体	17品目 119検体

(表2) 1点も放射性物質が検出されなかった品目

キャベツ	菌床なめこ(施設)	豚肉
ブロッコリー		鶏卵
カブ		原乳
カブ(施設)		



## 福島県産米の使用を要請しました

福島県が米を生産する農家約23,000戸に対し、平成23年産福島県産米の放射性物質緊急調査を実施した結果、食品衛生法の基準値(100Bq/kg)を超えたものは583戸あり、県中、県南、相双地方の7戸を除いては、県北地方となっています。この結果により米の出荷の見合わせが解除されたところであり、県では、企業や病院等の食堂に対し、県産米の使用継続及び使用再開を要請する取組を行っています。

この一環としていわき農林事務所では、5月9日(水)に、いわき地方を代表する観光施設であるスパリゾートハワイアンズを運営する常磐興産株式会社を訪問しました。スパリゾートハワイアンズは、首都圏を含めた県外からの来客も多いうえに、子供連れの家族が多いことから、自社で空間や食材の放射性物質を調査し、聞かれた時はすぐに説明できる体制としており、苦情は少ないとのことでした。食材については、野菜は県産を利用しているが、米は他県産であると説明がありました。地産地消について、積極的に推進する考えも聞くことができ、県産米の使用についても改めて要請しました。

みなさんも、放射性物質に関する正しい情報を取得したうえで、米を含めた県産農林水産物を使用していただき、福島県を応援してください。

(放射性物質に関する情報はこちらをご覧ください)

### 県の農林水産物モニタリング情報

[ふくしま新発売](http://new-fukushima.jp/) [検索](#) <http://new-fukushima.jp/>

### 市の農林水産物モニタリング情報

[見えます!いわき](http://misemasu-iwaki.jp/) [検索](#) <http://misemasu-iwaki.jp/>

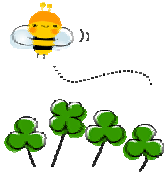
### 加工食品等の放射性物質検査結果について

<http://www.pref.fukushima.jp/eisei/syokuan/syokuhin1/syokuhinRIkensa/index.html>

### 実際の食事に含まれる放射性物質の測定について

生活協同組合コープふくしまで測定した結果、継続して同じ食事をした場合、1年間の内部被ばくは0.01から0.14ミリシーベルトとなるとされています。

[http://www.fukushima.coop/kagezen\\_news/kagezen/index.html](http://www.fukushima.coop/kagezen_news/kagezen/index.html)



## いわきの農林業を配布しました

いわき農林事務所では、事業実施位置及び農産物生産地のほか農林業データをまとめたパンフレットを発行しています。

いわき農林事務所管内図には、主な農産品や主な花き等が一目で分かるように図で示されています。また、農業データ（農業種別から見た農家数、農業就業人口等）、林業データ（製材品生産量、生しいたけ・なめこ生産量等）だけでなく、今年度は東日本大震災による農林事務所関連公共施設等の被害状況も地図と写真で掲載しています。

パンフレットは、3月末に完成し、5月中に市内の団体に配布したほか、特定非営利活動法人いわきNPOセンターを通じて市内の応急仮設住宅29か所に配布しました。さらに、今年度は、復興元年ということから、学習に役立ててもらうため市内の小・中学校、県立学校にも配布しました。

ぜひ子どもたちにもいわきの現在の状況や農林業に興味をもって学んでもらいたいと思います。



（「いわきの農林業」の一部）



## 小名浜魚市場にカツオ初水揚げ！

5月21日（月）の朝、小名浜魚市場に今期初めてカツオが水揚げされました。同魚市場では昨年8月29日以降、約9ヶ月振りのカツオです。例年であればゴールデンウィーク頃が初水揚げですが、この日を待ち焦がれていた多くの関係者が集まり、浜は久しぶりに活気づきました。水揚げ量は、カツオ約7t、マグロ類約12tで、八丈島東沖で漁獲したものです。

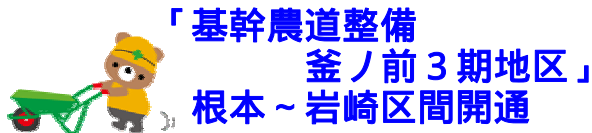
カツオは、沖合を回遊する魚で、事前検査、水揚げ時の検査でも放射性物質は検出されませんでした。地元ではスーパー、小売店に出回り、価格的に問題はなかったようですが、県外に出荷したものは相場より安い価格で取引され、残念な結果となってしまいました。

しかし、船主さんは「今後も小名浜魚市場への水揚げは継続していく」との強い意志があり、関係者も今後の対策について協議していく予定です。このような前向きな姿勢が風評被害の打破につながるものですので、みなさん応援してください。



（小名浜魚市場に水揚げされた様子）

## 一般情報



4月2日(月)、いわき市遠野町の農道工事「釜ノ前3期」地区の根本～岩崎区間が一般交通開放されました。当区間は、平成7年から平成23年まで施工が行われていた区間で、延長は、1,113mとなっています。今般の東日本大震災により道路が一部被災を受けましたが、補修工事も無事完了し、今回の開通となりました。

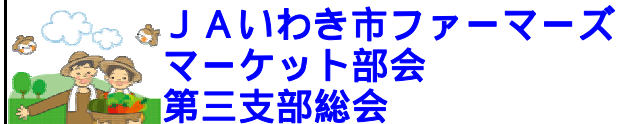
この開通により、遠野町上根本から遠野中心部を通らずに主要地方道いわき石川線へつながることで平・湯本方面へのアクセスが大変よくなり、農産物などの輸送体系の改善が期待されます。

また、農地への移動など利便性の向上も図られており、ちょうど田植えのこの時期、農道沿線の水田では例年以上に生き活きた農作業の風景が見られました。

この先の岩崎～坂下区間については現在施工しているところであり、早期に開通できるよう、これからも整備に取り組んでいきます。



(根本～岩崎区間)



4月5日(木)、割烹ほてる正月荘において、JAいわき市ファーマーズマーケット部会第三支部総会が開催されました。

当部会は、JAいわき市の直売所の部会であり、5つの支部が市内3カ所の直売所に農作物を出荷し、地産地消に貢献しています。

総会では、昨年度の事業報告及び収支決算が満場一致で承認されました。また、今年度の計画では、農産物放射性物質検査の実施や安全・安心な農産物生産活動を軸とし、イベントへの積極的な参加や研修による資質の向上等、活動強化のための取組が承認されました。

その後、いわき農林事務所農業振興普及部より「野菜作りのポイントと放射能物質対策について」と題して講話を行い、これまでの放射性物質検査の経緯を説明して、放射性物質吸収抑制のための土づくりを提案しました。参加者からは、安全な農産物の提供を目指して農産物放射性物質検査について多くの質問が出され、活発に意見が交わされました。



(総会の様子)



## 平木材市場創立54周年 記念市が開催されました

4月20日(金)、株式会社平木材市場の創立54周年記念式典及び記念市が、いわき市内郷綴町にある同市場内で開催されました。

記念式典では、木材関係者ほか約50名が出席し、齋藤社長より「今後も大震災からの復旧、復興に向け木材の安定供給に取り組んでいく」とのあいさつの後、同市場が長年にわたる素材及び製材品の流通を通して県産木材の円滑な供給に努められたことに対して、戸井田いわき農林事務所長が謝意を述べるとともに、県としても福島県復興計画に基づき、森林・林業・木材産業の再生に取り組むとのあいさつを行いました。

記念市では、原木が2,000m<sup>3</sup>入荷し、活発な取引が行われ、スギ3m柱材は、立方1万円、3.65m中目材は1万1千円前後での値動きとなりました。



(記念市の状況)



## 平成23年度サンシャイン トマト出荷協議会総会

4月20日(金)、JAいわき市本店において、サンシャイントマト出荷協議会総会が開催されました。

放射線モニタリングの徹底など生産・販売に携わる関係者の努力もあり、風評被害の影響を最小限に抑えられました。

出荷実績では、他のトマト産地が全国的な低温の影響やトマト黄化葉巻病の蔓延などで大幅に出荷量を減らした中で、いわきの出荷量は前年同様で、販売単価も前年を上まわる結果となりました。いわき農林事務所農業振興普及部から肥培管理や病害虫防除指導を行い、生産者の皆さんは、7月の栽培終了まで安定した出荷が出来るよう、

栽培のポイントを再確認していました。

また、風評被害対策の新たな取組として、放射性物質の自主基準値を設けることを決定しました。新たな自主基準値は、学校給食の基準値に準拠し、セシウム合計値で40Bq/kg以下としました。学校給食への供給がまだ再開されていないこともあり、新たな取組が風評被害払拭に繋がることを関係者一同願っています。



## 「緑の募金」の街頭募金が 実施されました

4月28日(土)、いわき市緑化推進委員会の主催による「緑の募金」の街頭募金が、いわき・ら・ら・ミュウ及びアクアマリンパークにおいて実施されました。

この街頭募金は、毎年4月1日～5月31日の「緑の募金運動推進期間」に実施されているもので、今年は「ひろげよう 大地うるおす 植樹の輪」をテーマに、いわき市立汐見が丘小学校緑の少年団26名とサンシャインガイドいわき2名のほか、磐城森林管理署、いわき市森林組合、県造園建設業協会いわき支部、福島県いわき農林事務所も参加しました。

当日は、前日の雨も上がり、会場には子ども達の募金を呼びかける元気な声が響き、訪れた人達ばかりだけでなく、地元商店街の方々からも、多くの募金が寄せられました。募金に協力をいただいた方には、緑の羽根のほか、ペゴニア、マリーゴールド、サルビア等の花の苗やレンギョウの苗木が配られ、色鮮やかな花木の苗を手にした親子連れなどが笑顔を浮かべる光景があちらこちらで見られました。

地域緑化推進のため、これからも「緑の募金」にご協力をよろしくお願いします。



(街頭募金の様子)

## いわき農林事務所からのお知らせ

ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new.fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
  - (1)モニタリング情報検索
  - (2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」  
及び「原発事故」からの  
復興のために！



ふくしまから  
はじめよう。

Future From Fukushima.



皆様からのご意見・情報をお待ちしております。  
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課  
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地  
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196  
U R L <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>  
E- Mail [iwaki.nourin@pref.fukushima.lg.jp](mailto:iwaki.nourin@pref.fukushima.lg.jp)

